CORE Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk

16　前脈絡動脈閉塞例の病理学的検討

（社会保険中央病院脳外科）○斎藤公男，大岩泰之，古場群己

前脈絡動脈閉塞症例の一剖検例を報告し臨床症状との関連から病理学的検討を行った。

病理所見では，視放線起始部，内包後脚，淡蒼球内側部，視床外側核群，側頭葉内側面，更には，中脳大脳脚，黒質に，梗塞巣を認めた。

本動脈閉塞による神経症状はAbbieあるいはMonakowの名で知られる意識障害，片麻痺，知覚障害，視野障害などである。自験例では，視野障害，知覚障害は明らかではないが，視放線起始部や内包に梗塞巣を認めた事より容易に存在した事が推察される。意識障害に関しては，剖検所見からしても説明し難く，本動脈一本の梗塞によるものとは考え難く種々の因子の関与が推察された。

17　水頭症において予後不良を来たす因子
－髄液生化学的検討－

（水戸赤十字病院脳外科）○小野寺良久
（脳外科）　阪田実利

先天性水頭症30例について，髄液中量的脂酸構成とモノアミン代謝産物の経時的変化を予後良好例と不良例に分けて検討した。髄液中量的脂酸構成はガスクロマトグラフィーにより分析し，モノアミン代謝産物としてHVA・5－HIAA・MHPGを高速液体クロマトグラフィー電気化学検出法により定量した。術前の各脂酸含有量とモノアミン代謝産物は4ケ月未満の症例，高髄液圧の症例，進行性脳室拡大のある症例において高値を示した。これらの物質はシャント手術後，予後良好例では低下する傾向を認めたが，不良例では低下しなかった。長期観察例において，予後良好例では正常域内であったが，不良例ではC16，C18の増加がみられ脳実質の破錠が示唆された。

18　金属によるMRI artifactの実験的研究

（霞ケ浦病院脳外科）○伊東良則，朱田精宏

MRIはX線CTに比べ，骨などのartifactから影響されることなく，特に後頭蓋窩・中頭蓋窩の病変検出能にすぐれ，その他にも多くの長所を有しているが，一方，MRIの欠点もあげられる。今回，我々はMRIの欠点の1ツである，体内に磁性体あるいは非磁性体を含む金属を有する場合の危険性やMRI画像上の問題点を検討するために，現在，臨床的に使用頻度の高いと思われる材料12品目を選び，その影響を観測するための基礎的実験を行い，若干の文献的考察も加え報告した。【結果】強磁性体での撮像は，その周囲の解剖学的構造の歪みが激しかった。常磁性体での撮像は，その磁性体局所のみのArtifactを呈した。非磁性体での撮像は，とくに問題となるArtifactは見られなかった。現在，臨床的に多く用いられている脳動脈瘤クリップは臨床的にもほぼ問題ないと考えられるが，静磁場強度が1.5Tの装置を臨床に使用されている現在，なお慎重な対応が必要であると考えられる。

19　救命部における頸椎損傷の検討

（救命部）○斎藤　裕，斎田晃彦，小池荘介

東京医科大学救急救命部において経験した4例の頸椎損傷は，全例男性，24～67歳である。4例中3例は高所からの転落で，1例はラグビー練習中の事故であった。前方脱臼，椎体骨折，椎弓骨折，骨傷無く四肢麻痺をきたした症例等であった。第4頸髄呼吸中枢麻痺症例はなかったが，4例中3例までが無気肺，血胸，脳挫傷，髄膜炎等呼吸障害をきたし得る合併症を伴っていた。頸椎外傷例の初期呼吸管理の困難さを報告した。